

子どもの姿 「共に生きる力」

四日市市の子どもは今

四日市市学校教育ビジョンでは、「生きる力」に加えて「共に生きる力」を備えた子どもを「めざす子どもの姿」としてとらえています。

「共に生きる力」をあらわす子どもの姿

- ◇ コミュニケーション力・・・他の意見を聴き、自分の思いを伝える力を身につけた子ども
- ◇ 互いに向上する人間関係・・・互いに切磋琢磨し、向上しようとする子どもたち

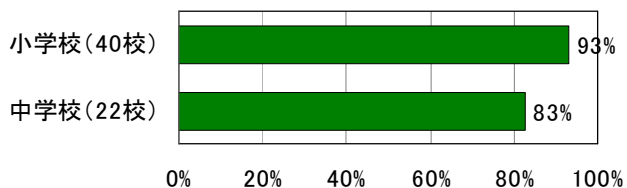
「共に生きる力」をはぐくむための視点である「互いに向上する人間関係」を築くには、他者を認め互いに尊重しあう態度や、自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力など「コミュニケーション力」の育成が不可欠です。各校・園では、これらの育成において、特に力を入れて取組をすすめてきました。

図1によると「学校が楽しい」と感じている子どもの割合は、小学校においては91%、中学校においては87%となっています。また、図2によると「いじめは絶対にいけない」と思っている子どもの割合は、小学校において93%、中学校において83%となっています。いずれの項目も、小学生よりも中学生のほうが低くなる傾向にあります。成長過程とともに複雑になる人間関係が、より豊かになるよう、今後も取組を進めていく必要があります。

図1 「学校が楽しい」と感じている



図2 「いじめは絶対にいけない」と思っている



※上記データはH22年度各学校のアンケート調査集計結果より



上記のような結果から、本市の子どもたちは、概ね良好な人間関係を築きながら学校生活を過ごしているものの、成長過程において、人とのかかわりに消極的になる傾向があると考えられます。今後も幼保小中が互いに連携しながら、子どもの成長や発達に応じた指導方法の工夫や体制の整備を図ります。